

飲食店参入で高級志向が活況 容器を開けた瞬間の楽しみを演出



2位

重厚感ある見栄えと色調

紙ボックス ハイグレードタイプ90-60
黒炭・倉紀:1段黒ベース

1段弁当で足付きのため一目でボリューム感と豪華さが伝わる。本体は黒のワントーン、蓋(2種類)も同じ黒ベースのため重厚感がある。仕切りは約40種類もあり、予算に合わせて選択できる。



5位

ボリュームと豪華を両立

紙ボックスハイグレードタイプ110-40竹膳
2段会席:2段黒ベース

2段会席・弁当として活用。蓋は2種類。仕切りは黒と渋金の2種類。上品な足付きでさりげなくボリューム感を演出できる。3種ご飯、3種おかず、ご飯&おかずなど、活用用途は自在。



収納に優れ豪華さも演出

こと弁シリーズ
(十六夜)

1位

一人前が最小限で収まるサイズでありながら豪華さが際立つ。蓋3種類、仕切り2種類、季節に合わせたデザインを選択できる。足付きでボリューム感を演出でき、装飾紙や風呂敷で包めば高級感が一層増す。

取り外し可能な中仕切り

3位

カセット式 KF-54

カセット(中仕切り容器)は4種類から選択可能。メニューに合わせてカセットの大きさ、配置、数を選択できる。バリエーション豊富で使い勝手は抜群。弁当はもちろん惣菜の合い盛りにも好適。



環境に優しい機能美

4位

PTシリーズ
PT-100PUB(PP)
PT-200PUB(PP)

正方形と長方形で選択が可能。主にハンバーガーなどの調理パンに用いられるが、洋食の弁当にも好適。素材は環境に配慮した紙製で、持って軽く、食事後の処分も簡単。

コロナ禍 トレンド包材 TOP 5 北原産業

本社所在地=岡山県倉敷市新倉敷駅前5-141
1969年設立、プラスチックと紙の両方を生産販売する総合食品容器メーカー。自社で顧客に合わせた個性的な商品、環境に配慮した商品の開発を行う。

「コロナ禍の外食自粛により」高くてもおいしい料理を食べたいという「テイクアウト需要」が増加。高価格の商品に見合う高級包材の引き合いが強い。とりわけ新たに「テイクアウト」を導入した専門店が、「コンビニやスーパー」との差別化を図る傾向が強くなり、容器を開けた瞬間の歓喜演出に努めている。また、環境に配慮した紙製にも注目が集まっており、「コロナ禍」を契機に包材の種類や役割が再認識されたといえる。

「コロナ」のテイクアウト参入で、新たな商機をつかんだ飲食店が多く、終息後も継続する機運が高まっている。また、巣ごもり生活の浸透から、海外で人気の「ホームパーティー」が日本にも普及しており、テイクアウトパーティーの増加も予想される。包材需要の要請はさらに多様化するだろう。

伸びた包材のポイントは、①紙ボックスシリーズで中仕切りが多く汎用性がある②シンプルで和洋中を問わない③高級2段ボックスで料理の盛り付けが引き立つ、など。当社で動きのよかったトップ5製品を紹介する。



北原産業
北原俊明 常務取締役